

特別寄稿論文

令和4年度学習指導要領実施状況調査の結果を受けて授業改善を考える

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 小倉 勝登

1 令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査の結果について

令和6年7月10日に令和4年度実施の学習指導要領実施状況調査の結果について速報版が公表された。速報版には、

1. 平成29年学習指導要領の主な改訂のポイント
2. 学習指導要領実施状況調査から明らかになった成果と課題
3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性
4. 調査問題例

が整理されている。それぞれの項目について詳細を示すと以下ようになる。

(1) 平成29年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 公民としての資質・能力の基礎の育成に向けて、社会的事象の見方・考え方を働かせ、問題解決の見通しをもつ活動や社会的事象の特色や意味を考え説明する活動、社会への関わり方を選択・判断し、よりよい社会を考えようとする活動などの問題解決的な学習活動の充実を図る。
- 中学校社会科への接続・発展を視野に入れて、内容の枠組みと対象を「地理的環境と人々の生活」「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」「歴史と人々の生活」と整理し、社会科の特質を踏まえ、内容の改善を図る。

令和4年度学習指導要領実施状況調査については、改訂のポイントである問題解決的な学習活動の充実と内容の改善の二つの柱に基づいて作問した調査問題で実施している。

(2) 学習指導要領実施状況調査から明らかになった成果と課題

学習指導要領実施状況調査から明らかになった成果と課題については、次の4点に整理して示されている。問題解決的な学習活動の充実に関するものが3点、内容の充実に関するものが1点である。

- 資料から問いを見いだすことは相当数の児童ができているが、問題解決の見通しをもとうとすることに課題があると考えられる。
- 資料から情報を読み取ることは相当数の児童ができているが、社会的事象の特色や意味を考え説明することや、読み取ったことを基に図や文などにまとめることに課題があると考えられる。
- 社会に見られる課題を捉え、社会への関わり方を考えようとすることに課題があると考えられる。
- 内容により基礎的な知識及び技能の定着に課題があると考えられるものや具体的な事実に基づいて社会的事象の特色や意味を理解することに課題があると考えられる。

(下線、破線 筆者による)

(3) 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

明らかになった成果と課題を踏まえて改善の方向性としては、次に示す3点である。

○ 指導上の改善点

- ・ 学習の問題について追究・解決の見通しをもつ活動、複数の情報を関連付けて社会的事象の特色や意味を考え説明する活動、学習で身に付けた知識を使って自分で考えた図や文などでまとめる活動を重視する。
- ・ 社会に見られる課題を踏まえ学習したことを基に、自分たちにできることなどを考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりする活動を重視する。
- ・ 内容に関しては、例えば、地理的環境の学習において基礎的な知識や技能が定着する指導や、例えば、政治の学習において具体的な事実や意義などを政治の働きと結び付けて考えるようにする指導の充実を図る。

問題解決的な学習活動の充実に関する改善の方向性に示されている学習活動に関して、さらに整理して示すと、次の4つの学習活動が重要であると考えられる。

- ① 学習の問題について追究・解決の見通しをもつ活動
- ② 複数の情報を関連付けて社会的事象の特色や意味を考え説明する活動
- ③ 学習で身に付けた知識を使って自分で考えた図や文などでまとめる活動
- ④ 社会に見られる課題を踏まえ学習したことを基に、自分たちにできることなどを考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりする活動を重視する、となる。

2 問題解決的な学習活動の充実に向けて

(1) 資質・能力育成のプロセスを大切にする

小学校社会科の目標に、小学校社会科がどのような学習を通して、資質・能力を育成するのか、育成する過程が示されている。つまり、目指す社会科の学習像が描かれている、ということである。ここで、注目するのは、目標の最初に示されている柱書の部分である。

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

(強調、二重線、破線は筆者による)

柱書に示されている「社会的な見方・考え方を働かせ」とは、社会科における見方・考え方を示している。ここで言う社会科とは、小学校と中学校を合わせて社会科として表現している。つまり、社会的な見方・考え方とは、小学校社会科の見方・考え方である社会的な見方・考え方、中学校社会科の見方・考え方である社会的な見方・考え方、社会的な見方・考え方の歴史的な見方・考え方、現代社会の見方・考え方の総称である。小学校社会科においては、「社会的な見方・考え方」ということになる。

次に、柱書に示されている「課題を追究したり解決したりする活動を通して」とは、教科の特質に応じた学習活動を示している。小学校社会科において考えれば、これは、「**問題解決的な学習**」ということになる。このように読んでいくと、小学校社会科の学習は、

社会的事象の見方・考え方を働かせ、問題解決的な学習を通して、
グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

と示されていることがわかる。つまり、小学校社会科は、目標(1)(2)(3)で示されている資質・能力を育成するためには、「**社会的事象の見方・考え方を働かせ、問題解決的な学習を通して**」ことが大前提と言うことになる。

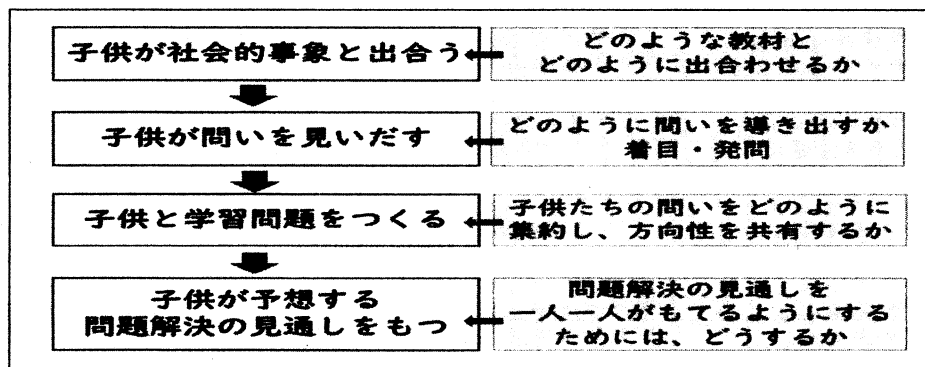
さらに、今回の学習指導要領では、資質・能力の育成のためには、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が重要であることが記されている。小学校社会科においては、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善は、端的に言えば、「**問題解決的な学習過程の充実**」と言うことができる。これを実現するには、子供が社会的事象から学習問題を見だし、問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果を振り返ってまとめたり、新たな問いを見いだしたりする学習過程などを工夫することが考えられる。つまり、社会科固有の学びのプロセスを一層充実させることが求められているのである。

問題解決的な学習活動の充実を図るためには、令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査の結果(3)2の成果と課題を踏まえた改善の方向性に示されている4つの学習活動を重視する必要がある。そこで、次の4つの学習活動の充実について説明する。本稿では、特に「子供が問題解決の見通しをもつ活動」を中心に説明する。

(2) 子供が問題解決の見通しをもつ活動が重要

① 子供が問題解決の見通しをもつプロセスを丁寧に行う

「主体的な学び」の視点から大切にしたいことは、子供たちが学習の見通しをもつことである。学習の見通しをもつとは、子供たちが社会的事象と出会い、疑問や予想をもち、学習問題（問い）をつくり、生活経験や既習を基に学習問題の解決に向けて予想し、学習計画を立てる、といった「**問題解決の見通しをもつ**」ことである。



問題解決的な学習において、「学習問題（問い）」が重要な役割を果たしていることは言うまでもないが、その上で、子供たちが学習問題（問い）を立てる前後で「予想する」こと、この活動を大切にしたい。子供たちは、まず、生活経験や既習と結び付けて解決のために予想するからである。子供自らの予想こそ、学習問題（問い）につながり、学習への見通しにつながっていくのである。そのためには、まず、社会的事象とどのように出会うかが重要である。その出会いが、子供たちの中に驚きや疑問を生み、主体的な問題解決の始まりとなるからである。さらに、子供たちが、「学習問題（問い）を把握する」ことや解決のために「予想をする」ことを丁寧に扱うことで、子供による問題解決の見通しにつな

がるのである。つまり、子供が学習問題をつかみ、学習計画を立てるまでを丁寧に行う、ということである。

② 実践上の課題

子供が問題解決の見通しをもつ活動を丁寧に行う時の課題は、何であろうか。現場の先生方の多くの実践から、課題が見えてきた。それは、子供が、「何を基に予想をするのか」ということである。実践を基に整理すると以下のように分類できる。

A 資料を基に	B 既習（同じ展開）を基に
C 既習（学習したこと）を基に	D 社会的事象との出会いを基に
予想（見通し）を立てる	

A 資料を基に予想をたてる とは

学習問題を設定した後で、学習問題の解決に向けて予想を立てるための根拠となる資料を提示する。もちろん、根拠となるように十分に吟味した資料を提示することが前提である。ここで留意したいことは、資料の読み取りではなく、資料を基に学習問題の解決に向けた予想をすることである。そこで例えば「学習問題を解決するために、資料を基に予想を立ててみましょう」などと教師の発問が重要となる。

B 既習（同じ展開）を基に とは

学習指導要領の内容の中には、1つの記載でいくつかの単元を含んでいるものがある。このような内容は、同じ社会的事象の見方・考え方を働かせて問題解決を図ることになる。つまり、社会的事象の出会いから問題解決の見通しをもつまでのプロセスを同じ展開で行うことができる。該当する内容を例示すると次のようになる。

- 第3学年(3)「地域の安全を守る働き」…警察署と消防署の働き
- 第4学年(5)「県内の特色ある地域の様子」…県内の3つの地域
- 第5学年(2)「我が国の農業や水産業における食料生産」…稲作、水産物等
- 第6学年(2)「我が国の歴史上の主な事象」…(ア)～(サ)

例えば、第3学年(3)「地域の安全を守る働き」では、消防署でも警察署でも、同じ社会的事象の見方・考え方を働かせて問題解決を図ることになる。一般的に学習指導要領の記載事項は一つだが、消防署と警察署の働きを二つ単元として学習することが多い。ここで、子供たちが、社会的事象の見方・考え方をくり返し働かせて問題解決を図るように意図的に単元デザインをする。例えば、二つの単元の学習を通して単元1の学習を単元2で生かすように設定することを意識して単元を構成すると、学習問題の設定や学習計画も、ほぼ同様に展開できる。その結果、子供たちは、追究の見通しや追究の仕方も同じように考えていくことができ、学びをつなぐことができる。学びがつながることがわかれば、子供たちは主体的に問題解決を図る単元展開が期待できる。

C 既習（学習したこと）を基に とは

既習を基に予想を立てる時に、参考になるのは小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編P.150, 151「小・中学校社会科における内容の枠組みと対象」である。ここを見ると類似した内容や内容同士の関係性、内容の系統性などを読み取ることができる。例えば、第3学年「市の様子」と第4学年「県の様子」を見ると、学年は違うが、同じ「地理的環境と人々の生活」に区分され、その中でも「地域」に区分される内容であることがわかる。学年は違っても、同じ枠組みなので、内容が類似し、単元展開が似てくることが考えられる。そこで、第4学年「県の様子」の学習を展開するときに、第3学年「市の様子」の学習を想起するように声かけをすると、子供達は既習を基に予想を立てることにつながると考えられる。これもB既習（同じ展開）を基に予想を立てることと同様に、子供たちが「社会的事象の見方・考え方をくり返し働かせ、問題解決を図る」ことである。

D 社会的事象との出会いを基に とは

教師は、子供と社会的事象の出会いを写真資料や映像資料、統計資料などを提示し、様々

に工夫する。その出会いの時点で、子供たちが予想を含んだ問いを立てることがある。その予想を含んだ問いは、そのまま学習問題に集約され、学習問題の見通しになることがある。つまり、「子供が社会的事象と出会う→予想を含んだ問いを立てる→学習問題に集約させる→立てた予想を含んだ問いが見通しになる」ということである。このような展開も多く行われている。ここでは、社会的事象とどのように出合わせるか、が鍵となる。

(3) 子供が、社会的事象の特色や意味を考え説明する活動が重要

問題解決的な学習は、子供が社会的事象から問いをもち、解決の見通しを立て、資料などを活用して調べ、みんなで話し合ったり、考えたりしてまとめる（解決する）学習過程である。その過程においては、社会的事象の特色や意味について考えることが欠かせないが、さらに、考えた特色や意味を説明する活動がとても大切である。

学習指導要領の解説では、次のように示している。小学校社会科で養う「表現力」とは、考えたことや選択・判断したことを説明する力や、考えたことや選択・判断したことを基に議論する力などである。さらに、「説明する力」については、根拠や理由を明確にして、社会的事象について調べて理解したことや、それに対する自分の考えなどを論理的に説明できるように養うことが大切であり、「議論する力」については、他者の主張につなげたり、互いの立場や根拠を明確にして討論したりして、社会的事象についての自分の考えを主張できるように養うことが大切である、と示している。つまり、大切にしたいことは、「問題解決のために話し合う」ことである。子供たちは、調べたことや考えたことを交流することで自分の考えを深めることができるからである。考えたことをきちんとアウトプットさせる活動が重要ということである。

(4) 子供が、自分の言葉（文、図表など）でまとめる活動が重要

資料等を用いて作品などにまとめたり図表などに表したり、理解したことを言語によって表現することが大切である。学習して身に付けた知識を基に、自分の言葉や図や表で、まとめる活動を大切にすることがとても大切である。その時に、教師として次の3点に気を付ける必要がある。

○社会科で学習した言葉を使ってまとめるよう指導すること

○教師が一方向的に抽象的なまとめを書かないようにすること

○何について書くのか指示に気をつけること

(5) 子供が、自分たちにできることなどを考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりすることが重要

「社会への関わり方を選択・判断する」ポイントは、学習したことを基に考えることが大前提である。さらに、例えば、学習して習得した知識などの中から、自分たちに協力できることを考え、学級で意見を出し合ったり話し合ったりして、その上で、たくさん出た意見の中から自分たちが本当に出来そうなことを選び出し（選択）、自分の意見や考えとして決める（判断）ことである。この学習活動において大切にしたいことは、次の通りである。

○「内容の取扱い」で示されている内容に関して学習活動を位置付けること

○しっかりした事実認識のあとに社会参画について選択・判断するという学習展開にすること

○単元を通して学習したことを基に、課題を明確にしたり、新たな問いを見いだしたりすること

○課題を明確にし、子供が課題を確実に把握すること

○社会への関わり方を選択・判断する際には、学習したことを根拠や理由として説明すること